

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	音楽基礎3
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 60時間
単位数	4単位	授業形態	講義	
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
担当教員情報				
担当教員	三宅・山路・澤田	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的				
音楽理論の知識を深めることは、ヴォーカリストとしての幅を広げることにもなる。1年次における学習内容を発展させ、広範で高い水準の音楽的基礎能力を習得する。実習では、楽譜の読み方や楽譜に対する知識を深め、音符の譜面を読むトレーニングを行う。音楽の基礎能力とされる「音感」「リズム感」「和声感」「読譜力」の育成を目指し、より良い音楽を創り上げるための基礎を学ぶ。講義では今後の音楽活動を更に発展させていくために、マイナーkey（平行調）の概念、メジャーkeyのダイアトニックコードの概念、和音の機能（T,SD,Dと代理コード）、転調と移調に関してピアノを弾きながら、歌いながら学び、歌う時・演奏する時・オリジナル楽曲を作る時に活かす。				
到達目標				
本科目はグレード対応科目となっており、2年次前期の座学はグレード11～15に準拠して授業が進行する。実習では全訳コールユーブンゲン(大阪開成館発行)をベースとしながら譜面のとおり歌うというカリキュラムで授業が進行する。1年次に学んだ音楽基礎に加えて、前期ではマイナーKeyを中心に理解と習得を目指す。メジャーkeyとマイナーkeyの違い、3種のマイナースケール（ナチュラル、ハーモニック、メロディック）、マイナーで使われるコードとケーデンス、移調と転調を理解して、音符やコードネームを楽譜に書ける事と歌・演奏・作曲・編曲に活かす事を到達目標としている。				
教育方法等				
授業概要	音楽の創作・演奏活動をしていく上で基礎的な音楽理論を集団講義形式で行う。実習はクラス分けを行い基礎コースと応用コースの2つのグループブレス形式で進行する。音楽理論を頭で覚えるだけではなく、学んだことをピアノを弾けるように、歌えるように、楽譜を書けるようにして、体感する。また、ジャンルを問わず過去の名曲を鑑賞して、音楽理論のどの部分が活用されているかを考え検証する。上級者も中級者も常に向上心を持って知識を深め、自身の歌・演奏・オリジナル作品に活かす事、表現の幅を広げる事を目指す。			
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備考	
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	実技	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	マイナーKey (1)	グレード11対応。短調の概念、メジャーとの違い、インターバルがわかる。		
2回	マイナーKey (2)	グレード11対応。短調の概念、3つのマイナースケールがわかる。		
3回	マイナーKey (3)	グレード11対応。短調の概念、調号、サークル・オブ・フィフスがわかる。		
4回	メジャーKeyのダイアトニックコード (1)	グレード12対応。メジャーkeyのダイアトニックコードがわかる。		
5回	メジャーKeyのダイアトニックコード (2)	グレード12対応。メジャーkeyのダイアトニックコードのディグリー表記がわかる。		
6回	メジャーKeyのダイアトニックコード (3)	グレード12対応。メジャーkeyのダイアトニックコードを使うことができる。		
7回	和音の機能 (1)	グレード13対応。Tonic, SubDominant, Dominant、ケーデンスがわかる。		
8回	和音の機能 (2)	グレード13対応。Tonic, SubDominant, Dominant、ケーデンスを使うことができる。		
9回	和音の機能 (3)	グレード13対応。代理コードがわかり、使うことができる。		
10回	転調と移調 (1)	グレード14対応。移調がわかる。		
11回	転調と移調 (2)	グレード14対応。転調がわかる。		
12回	転調と移調 (3)	グレード14対応。移調・転調できる。		
13回	コードの響き (メジャーkey)	グレード15対応。メジャーkeyのコードがわかる。		
14回	コードの響き (マイナーkey)	グレード15対応。マイナーkeyのコードがわかる。		
15回	まとめ	全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	音楽基礎3
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	4単位	授業形態	講義		
教科書/教材	「音楽基礎」教科書 適宜レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	樗木・大野		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
劇判音楽やゲーム音楽の制作に携わるためには、管弦楽編成での作曲知識と技術を持つことが必須である。管弦楽編成で使用される各楽器の奏法や音域を理解し、独奏曲から管弦楽曲までの幅広い編成選択ができるようになる。また、楽譜は、音楽の形態が多様化する現在でも音楽家同士のコミュニケーションツールとして必要不可欠である。管弦楽の記譜法を理解し、その手法を身に着ける。基礎的な音楽理論を身に着け、楽曲において管弦楽がどのような効果を発揮するかを意識し自らの楽曲制作において実践することができるようになることが目的である。					
到達目標					
管弦楽曲の作・編曲ができることを目標とする。また管弦楽曲の自筆譜作成や管弦楽作品の分析能力が身につく。その過程である編曲法を通して弦楽合奏、木管合奏、金管合奏などの室内楽曲の作・編曲法を理解し、楽器法を通して独奏曲から管弦楽曲の作・編曲ができるサウンドクリエイターとなることを到達目標としている。また本科目はグレード対応科目となっており、音楽理論グレード11～15に準拠して授業が進行する。学生が西洋音楽の要となるメジャー・マイナー調性と和声の仕組みを把握し、必要な場面で活用することができる。音楽の三要素であるリズム・コード・メロディの持つ意味を把握し、楽器演奏、作曲技術など自己の専門技術に活かすことができる。					
授業概要					
講義と共に個人ワークや、課題のプレゼンテーションも行う。他人の手法を理解し、どのように自分に還元できるかを意識する。各楽器を理解し、自身の作品の中で自在に使用し、理論的に色彩的に自身の作品で構築できる。また音楽理論を一面性の学問として捉えるだけでなく、物理学、心理学、人間の耳の特性等を踏まえて多角的に理解する。その上で音楽家同士のコミュニケーションツールとしての理論、調性、和声の機能を1年時の復習を交え、練習問題を多く取り入れて進行していく。黒板へ板書及び適宜資料を配布する。					
注意点					
学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や授業態度などには厳しく対応する。理由のない欠席や遅刻は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業で得る情報が今後の創作活動に深く関わることを意識し、必要になる情報について考えること。ただし、授業の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。					
評価方法					
	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	楽器法・弦楽器		弦楽器の音域、奏法がわかる。グレード1～5の復習		
2回	編曲法・弦楽器		曲を分析し、用法がわかる。グレード1～5の復習		
3回	作曲法・弦楽器		与えられた課題の実践、弦楽合奏曲を書くことができる。グレード6～10の復習		
4回	楽器法・木管楽器		木管楽器の音域、奏法を理解できる。グレード6～10の復習		
5回	編曲法・木管楽器		曲を分析し、用法を理解できる。グレード11対応。マイナー・メジャースケールの違い把握		
6回	作曲法・木管楽器		課題の実践、木管合奏曲を書ける。グレード11対応。3種のマイナースケールの成り立ちと用法		
7回	楽器法・金管楽器		金管楽器の音域、奏法を理解できる。グレード12対応。ダイアトニックコードについての概念		
8回	編曲法・金管楽器		曲を分析し、用法を理解できる。グレード12対応。ダイアトニックコードの理解と使用		
9回	作曲法・金管楽器		課題の実践、金管合奏曲を書くことができる。グレード13対応。和声の機能と西洋音楽の発展		
10回	楽器法補足		打楽器、鍵盤楽器の音域、奏法を理解できる。グレード13対応。代理コードとその仕組み		
11回	編曲法補足		曲を分析し、用法を理解できる。グレード14対応。近親調とその仕組み		
12回	作曲法補足		課題の実践、打楽器・鍵盤楽器曲を書くことができる。グレード14対応。近親調とその仕組み		
13回	ポップスにおける管弦楽編曲法1		ポップス作品における弦楽編曲ができる。グレード14対応。主調から近親調への転調		
14回	ポップスにおける管弦楽編曲法2		ポップス作品で木管の編曲ができる。グレード15対応。講師指定のコードの響きが特定できる。		
15回	ポップスにおける管弦楽編曲法3		ポップス作品で金管の編曲ができる。全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	音楽基礎 3
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース	開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 60時間
単位数	4単位	授業形態	講義	
教科書/教材	「音楽基礎」			
担当教員情報				
担当教員	大野元毅・前田	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的				
<p>学生が音楽を学ぶ際、また実務に携わる際に必須となる音楽理論を学ぶ。音楽の形態が多種多様化する現在においても楽譜での伝達は不変であり、楽器や作曲技術を習得する際に必要不可欠なものである。また実務上においてもスムーズな楽譜上での意思の疎通が正しく行われないと業務に支障をきたすことになる。楽譜を理解することは音楽を理解することと同義であり、音楽の三要素の一つであるメロディを表現するためには様々なスケールの用法を知らなければならない。コードとの密接な関係があり、調性やテンションを理解せずにスケールを使いこなすことは出来ない。スケール＝メロディを演奏する際には表現も共に学ぶ必要がある。この授業では学生が普段演奏される機会の多い楽曲を通してスケールを実際に演奏することで実践的にスケールを使用することができるようになることを目的とする。</p>				
到達目標				
<p>本科目はグレード対応科目となっており、音楽理論グレード11～14に準拠して授業が進行する。学生が西洋音楽の要となるメジャーとマイナーにおける調性と和声の仕組みをしっかりと把握し、必要な場面で活用することができる。音楽の三要素であるリズム・コード・メロディの持つ意味をしっかりと把握し、楽器演奏、作曲技術など自己の専門技術に活かすことができる。名曲を通してスケールを学ぶことで、様々なジャンルの音楽に触れ、優れたメロディラインを適切な表現で演奏出来るようになる。様々なスケールをギター及びベース上で適切なポジションで演奏できるようになる。転調や借用和音を含む楽曲上でメロディを展開できるようになる。コード、メロディとテンション、音価の関係を把握し、演奏できるようになる。</p>				
教育方法等				
授業概要	<p>音楽理論を一面性の学問として捉えるだけでなく、物理学、心理学、人間の耳の特性等を踏まえて多角的に理解しながら授業を進行する。その上で音楽家同士のコミュニケーションツールとしての理論、（読み書き、ルール等）調性、和声の機能を1年時の復習を交えながら進行し、実際の場面で応用できるよう練習問題を多く取り入れて進行していく。黒板へ板書及び適宜資料を配布する。</p>			
注意点	<p>キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	35%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	提出物	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	15%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	1年次の音楽理論の復習(1)	グレード1～5の習得を自己確認できる。課題曲「Chameleon」が演奏できる。		
2回	1年次の音楽理論の復習(2)	グレード1～5の習得を自己確認できる。課題曲「Chameleon」が演奏できる。		
3回	1年次の音楽理論の復習(3)	グレード6～10の習得を自己確認できる。課題曲「Watermelon Man」が演奏できる。		
4回	1年次の音楽理論の復習(4)	グレード6～10の習得を自己確認できる。課題曲「Watermelon Man」が演奏できる。		
5回	マイナースケール (1)	グレード11対応。マイナー・メジャーが区別できる。課題曲「Cantalope Island」が演奏できる。		
6回	マイナースケール (2)	グレード11対応。マイナースケールの種別がわかる。課題曲「Cantalope Island」が演奏できる。		
7回	ダイアトニックコード(1)	グレード12対応。ダイアトニックコードがわかる。課題曲「If Ain't Got You」が演奏できる。		
8回	ダイアトニックコード(2)	グレード12対応。ダイアトニックコードが使用できる。課題曲「If Ain't Got You」が演奏できる。		
9回	和声の機能(1)	グレード13対応。和声の機能がわかる。課題曲「If Ain't Got You」が演奏できる。		
10回	和声の機能(2)	グレード13対応。代理コードがわかる。課題曲「If Ain't Got You」が演奏できる。		
11回	転調と移調(1)	グレード14対応。近親調の仕組みがわかる。課題曲「What's Going On」が演奏できる。		
12回	転調と移調(2)	グレード14対応。近親調を使用できる。課題曲「What's Going On」が演奏できる。		
13回	転調と移調(3)	グレード14対応。転調をする方法を習得する。課題曲「Don't Know Why」が演奏できる。		
14回	転調と移調(4)	グレード15対応。コードの響きを聴音できる。課題曲「Don't Know Why」が演奏できる。		
15回	まとめ	全体のまとめ		